問　航路トハ

答　水路ノ内船舶ノ航行ノ用ニ供スル水域ヲ謂ヒマス但シ安治川ニ在リマシテハ澪筋ノ中央ヨリ左右ヘ各二十米木津川及尻無川櫓ノ渡下流ニ在リマシテハ澪筋ノ中央ヨリ左右ヘ同十五米ノ水域ヲ謂ヒマス

問　同取締規則中ノ航法ハ

答　(一)船舶ハ航路ノ右側ヲ航行スベシ

(二)船舶航路ノ交叉セル場所ニ於テ左方ニ轉向セントスルトキハ大廻リヲ爲シ右方ニ轉向セントスルトキハ小廻リヲ爲スベシ

(三)櫓櫂ノミヲ以テ航行スル船舶水流其ノ他ノ關係ニ依リ操船上危險ノ虞アル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

前項ニ依リ航行スル船舶ハ前二條ニ依リ航行スル船舶ノ進路ヲ避クベシ

(四)櫓櫂ノミヲ以テ航行スル船舶航路ノ交叉セル場所ニ於テ原動機ヲ用ヒ航行スル船舶ト互ニ進路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ原動機ヲ用ヒテ航行スル船舶ノ進路ヲ避クベシ

(五)他船ヲ追越サントスルトキハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲スベシ但シ原動機ニ依リ運航スル船舶ニ在リテハ長聲一發ニ續ク短聲一發ノ汽笛、汽角、號角其ノ他ノ信號ヲ爲スベシ

(六)船舶ハ濫リニ並列若ハ競爭シテ航行スベカラズ

(七)船舶航行中行違ヒ難キ場合ハ水流ニ遡航スル船舶ニ於テ避讓スベシ

(八)船舶航行ヲ横切ラントスルトキハ安全ナルコトヲ確メタル後航行スベシ

(九)船舶ハ他船及沿岸工作物ニ危害ヲ及ボスノ虞アル速度竝ニ方法ヲ以テ航行スベカラズ

(十)船舶ハ左ノ各號ノ場所ニ於テハ徐行スベシ

イ、渡船場附近

ロ、航路ノ交叉セル場合

ハ、航路ノ曲角

ニ、橋梁下

ホ、前各號ノ外交通上危險ヲ生ズル虞アル場所

(十一)船舶ハ航行中帆又ハ積荷等ノ爲進路ヲ見透シ難キトキハ見張人ヲ置クベシ

(十二)河川及運河ニ於テハ帆走スベカラズ但安治川築地渡下流、淀川毛馬閘門上流、新淀川、木津川落合下ノ渡下流尻無川福崎渡下流及神崎川ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

(十三)船舶ハ錨ヲ船胸ニ垂下スベカラズ

總噸數百噸以上ノ船舶河川及運河航行中ニ投錨準備トシテ左舷錨ヲ水面下ニ垂下シ置クベシ

(十四)船舶衝突其ノ他ノ事故ヲ生ジタルトキハ直ニ停船スベシ

前項ノ場合ニ於テ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ直ニ被害者ノ救護其ノ他適當ナル措置ヲ爲シ双方遲滯ナク其ノ旨所轄警察署ニ屆出ヅベシ

問　開港港則施行規則ニアル航法ハ

答　汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出航船ノ進路ヲ避クベシ

汽船ハ港界内及港界附近ニ於テハ他船ニ危害ヲ及ボサザル程度ニ速力ヲ減ジテ航行スヘシ

帆船ハ港界内ニ於テハ帆ヲ減ジ又ハ曳船ヲ用ヰテ航行スベシ但シ航路内、横濱港東水堤燈臺及北水堤燈臺附近、門司港界内及長崎女神内ニ於テハ縫行スベカラズ

船舶ハ竝列シテ航行スベカラズ

航路ヲ横切ラントスル船舶ハ航路ヲ航行スル他船ノ進路ヲ避クベシ

航路ニ於テ行違ヒタル船舶ハ互ニ航路ノ右側ヲ航行スベシ

船舶ハ航路ニ於テ他船ヲ追越スヘカラズ

雜種船ハ汽船及帆船ノ進路ヲ避クベシ

船舶ハ防波堤埠頭又ハ繫留船等ノ一端ヲ右舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ近寄リ左舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ遠ザカリテ航行スベシ

【雜　問】

本章ニ定ムルモノノ外船舶ノ航法ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依ル

海上衝突豫防法問答 終

遞信省令第六號

◆内海水道航行規則（昭和十一年七月一日ヨリ施行ス）

第一條　本令ハ備讃瀨戸、來島海峽、釣島水道及下關海峽ニ於ケル船舶ニ之ヲ適用ス

本令ニ於テ備讃瀨戸、來島海峽、釣島水道及下關海峽トハ左ノ水域ヲ謂フ

備讃瀨戸　男木島燈臺ヨリ、カナワ岩燈標、高島ノ北端、大阜埼、地藏崎、黑崎、豐島ノ南端、大槌島ノ頂、小與島ノ南端、本島ショケンボ鼻及黑鼻、佐柳島ノ南西端二面島ノ頂、高見島板持鼻、沖ノ洲桂燈浮標、牛島九五米山ノ頂、三ツ子島燈臺、小瀨居島ノ頂及小槌島ノ頂ヲ經テ男木島ノ南端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

來島海峽　蒼社川口ノ東岸ヨリ大島タケノ鼻ニ引キタル線竝大下島アゴノ鼻ヨリ梶取鼻及大島宮ノ鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ今治ノ港域ヲ除ク

釣島水道　釣島ノ北端ヨリ琴引鼻、頭埼、野忽那島燈臺、甫埼及小市島ノ頂ヲ經テ釣島ノ北端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

下關海峽　部崎燈臺ヨリ四十五度（眞方位）二海里ノ點ヨリ部崎燈臺及滿珠島ノ頂ニ引キタル線、滿珠島ノ頂ヨリ串崎ニ引キタル線竝和合良島ノ頂ヨリ臺場鼻及堺鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但門司下關及若松ノ港域ヲ除ク

第二條　船舶ハ左ノ各號ノ場合ヲ除クノ外航路筋ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ

一、衝突其ノ他急迫ノ危險ヲ避ケムトスルトキ

二、運轉自由ヲ得ザルトキ

三、人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ

四、海底電信電話線又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ

五、水路ノ測量又ハ浚渫作業ニ從事スルトキ

六、所轄官廳ノ許可ヲ得テ難破物又ハ沈沒物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ

前項第二號乃至第五號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ法令ニ特ニ規定セル場合ヲ除クノ外最見易キ場所ニ黑球又ハ黑色ノ形象一箇ヲ揭グベシ

第一項第六號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ最見易キ場所ニ紅色ノ方旗ヲ揭グベシ

前三項ノ規定ハ漁撈中ノ漁船ニハ之ヲ適用セズ但シ備讃瀨戸中小與島ノ南端ヨリ小瀨居島ノ頂ニ引キタル線以西ノ水域、來島海峽及下關海峽ニ於テハ漁撈中ノ漁船ヨリ通航船舶ノ進路ヲ避クルコトヲ要ス

第三條　船舶ハ安全ニ替リ行ク餘地ヲ有スル場合ニ非ザレバ他ノ船舶ヲ追越スコトヲ得ズ

汽船他ノ汽船ノ右舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ一長聲ニ引續キ一短聲ヲ、其ノ左舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ一長聲ニ引續キ二短聲ヲ發スベシ

第四條　海上衝突豫防法第七條第一項第三號、第四號、同第九條第一項及同第十條第一項ノ規定ニ依リ臨機ニ表示スルヲ以テ足ル船燈ハ第一條ノ水域航行中ノ船舶ニ限リ常ニ之ヲ揭ゲ置クベシ

第四條ノ二　海上衝突豫防法第二條第五號ノ規定ニ依リ增揭スルコトヲ得ル白燈ハ第一條ノ水域航行中ノ長サ四五、七二メートル以上ノ汽船ニ限リ常ニ之ヲ揭ゲ置クベシ但シ船舶ノ構造上之ヲ揭グルコト能ハザルモノニ在リテハ此ノ限リニ在ラズ

第五條　汽船ハ備讃瀨戸及釣島水道ニ於テハ左ノ航行法ニ依ルベシ

一　島嶼岬角等ノ爲前面ヲ望見スコト困難ルナル場所ニ於テハ其ノ島嶼岬角等ヲ右舷ニ見ル汽船ハ之ニ近寄リ左舷ニ見ル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト

二　海上衝突豫防法第二十五條ノ適用ヲ受ケザル場所ニ於テモ尙同條ニ規定スル航法ニ依ルコト

三　波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航行スルコト

第六條　汽船ハ來島海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一　中水道ハ順潮ノ場合ニ限リ又西水道ハ逆潮ノ場合ニ限リ通航スルコト但シ小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ順潮ノ場合ト雖西水道ヲ通航スルコトヲ妨ゲズ

二　前號ノ規定ニ依リ中水道ヲ通航スル汽船ハ龍神島、津島及アゴノ鼻ニ近寄リ又西水道ヲ通航スル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト即チ行逢汽船ニ在リテハ南流ニ於テ互ニ右舷ヲ北流ニ於テ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルモノトス

三　第一號但書ノ規定ニ該當スル汽船ハ海峽ノ西側（今治港防波堤燈臺、大濱燈臺、來島白石燈標）ニ近寄リテ航行スルコト

四　中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ又ハ今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ中水道若ハ西水道ヲ通航シテ東行若ハ西行スル汽船ノ進路ヲ避クベシ

中水道又ハ西水道ヲ通航スル汽船ハ轉流時ニ在リテハ一ノ瀨鼻又ハ龍神島ニ竝航シタルトキヨリ中水道又ハ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回左ノ信號ヲ爲スベシ

中水道通航汽船　一長聲

西水道通航汽船　二長聲

小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ來島又ハ龍神島ニ竝航シタルトキヨリ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回三長聲ヲ發スベシ

中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ航行スル汽船ハ中渡島ニ竝航シタルトキヨリ今治港防波堤燈臺ノ沖合迄又今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ今治港防波堤燈臺ノ沖合ヨリ中渡島ニ竝航スル迄晝間ニ在リテハ最見易キ場所ニ國際信號旗第一代表旗ノ下ニCヲ揭ゲ夜間ニ在リテハ汽笛又汽角ヲ以テ數回四長聲ヲ發スベシ

第七條　前條ノ潮流ノ流向ニ付テハ中渡島潮流信號所ノ潮流信號ニ又之ニ依リ難キ場合ハ水路部刊行ノ潮流表ニ依ルモノトス

第八條　汽船ハ下關海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一　早鞆瀨戸（柁ケ鼻ヨリ下關低燈ニ引キタル線及鷗ケ鼻ヨリ火ノ山ノ頂ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域）ヲ西行セントスル汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ鳶ケ巣鼻ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ滿珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト又早鞆瀨戸ヲ東行セントスル汽船ハ下關高燈ヨリ三角山ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ巖流島燈臺ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト

二　總噸數百噸未滿ノ汽船ハ前號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出來得ル限リ門司埼ニ近寄リテ航行シ行逢ヒタルトキハ東流ノ場合ニ在リテハ互ニ右舷ヲ相對シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過シ且門司埼以東火ノ山ノ頂ヨリ鳶ケ巣鼻ニ引キタル線以西ノ水域ニ於テハ門司埼燈標ヨリ八十三度（眞方位）ニ引キタル線（下關高燈ト門司埼燈標トノ一線）以南ヲ航行スルコト（若シ門司埼ニ近寄リテ航行シ能ハザルトキハ前號ノ規定ニ依リテ航行スルコト）

三　第一號ノ汽船行逢ヒタルトキハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト

四　第一號ノ規定ニ依リ早鞆瀨戸ヲ東行中ノ汽船ハ第二號ノ規定ニ依リ同瀨戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見、西行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト、又第二號ノ規定ニ依リ早鞆瀨戸ヲ西行中ノ汽船ハ第一號ノ規定ニ依リ同瀨戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見、東行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト

五　潮流ニ遡リ早鞆瀨戸ヲ通航スル汽船ハ潮流ノ速度（水路部刊行潮汐表及下關海峽潮流圖ニ依ル）ヲ超ヘ一時間三海里以上ノ速度ヲ保ツコト

六　下關高燈附近ト山底ノ鼻附近トノ間ニ於テハ航行ニ因リ生ズル波浪ノ爲海難其ノ他ノ事故ヲ生ゼザル程度ノ速力ニテ航行スルコト

帆船ハ早鞆瀨戸ニ於テハ縫航スベカラズ

第九條　船舶ハ船首ヲ回轉スル爲下關海峽ニ於テ投錨スルトキハ晝間ニ在リテハ黑球又ハ黑色ノ形象一箇ヲ、夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ加ヘテ紅燈一箇ヲ最見易キ場所ニ掲グベシ

第十條　門司港、下關港又ハ若松港ヨリ出港シタル汽船ニシテ下關海峽ノ東口ニ向ケ航行スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニEヲ、又西口ニ向ケ航行スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニWヲ各下關海峽ノ航路筋ニ入ル迄前檣又ハ其附近ノ最見早キ場所ニ掲グベシ、但シ平水航路ヲ航路定限ト爲スモノハ此ノ限リニ在ラズ

一　門司港ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノ

前田川口—山底ノ鼻間　第一代表旗ノ下ニM

二　下關港ニ入港スルモノ

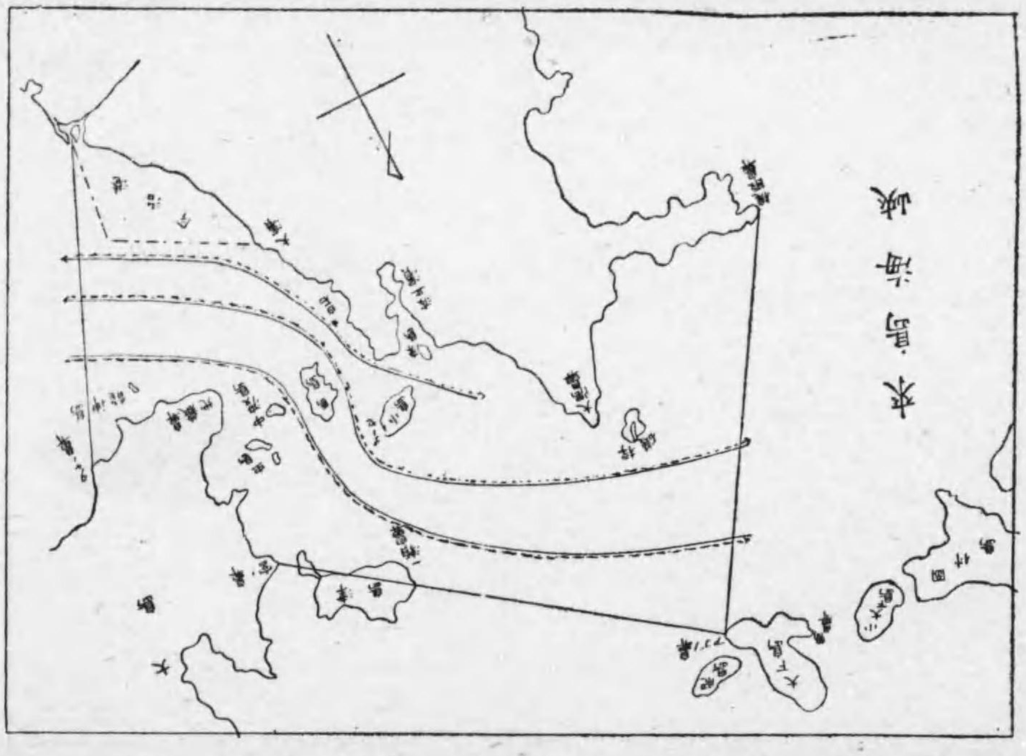
前田川口—山底ノ鼻間　第一代表旗ノ下ニS

三　若松港ニ入港スルモノ

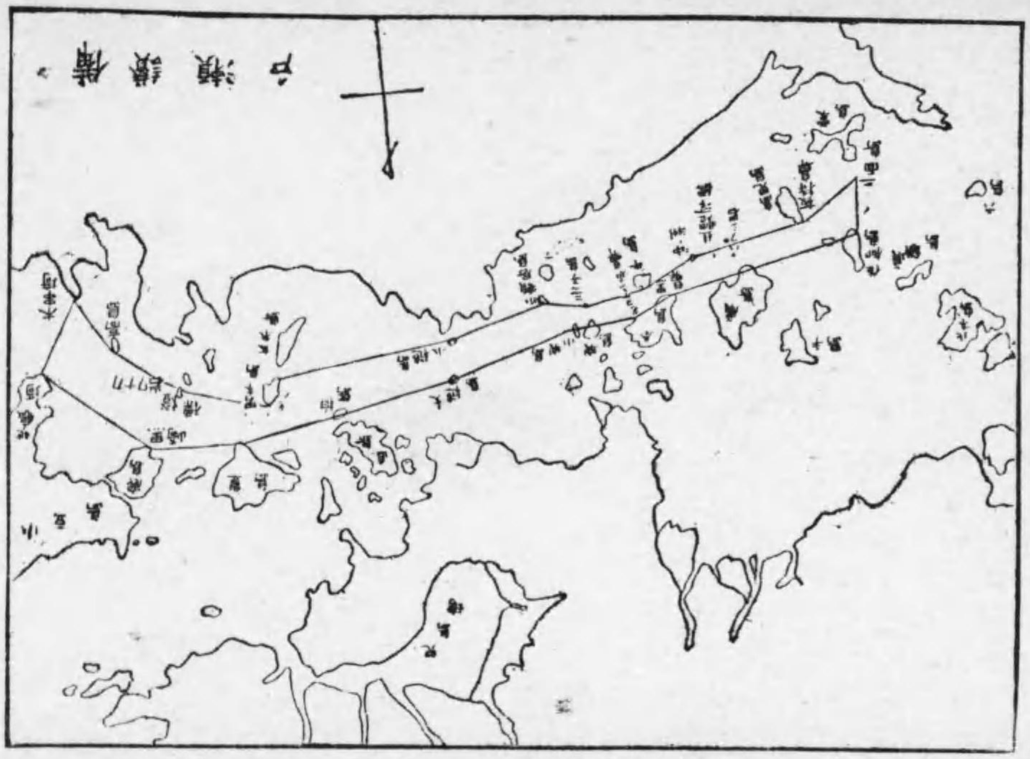
山底ノ鼻—臺場鼻間　第一代表旗ノ下ニY

附　則

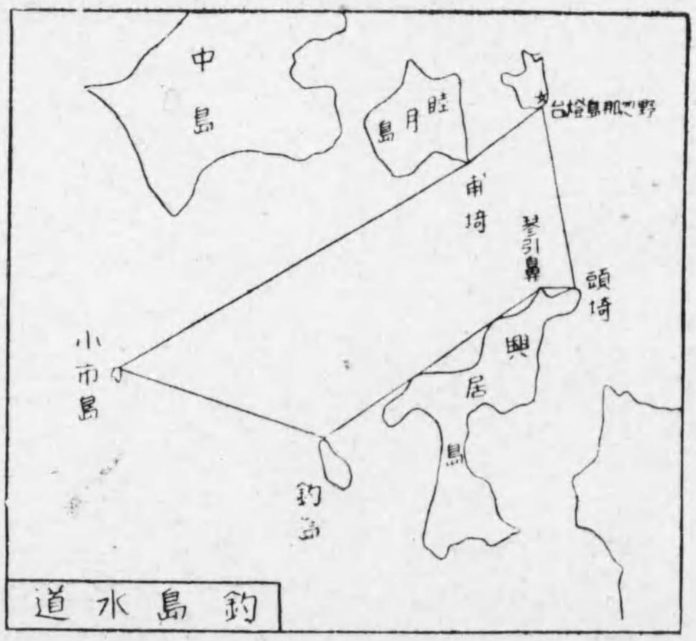
本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施ス



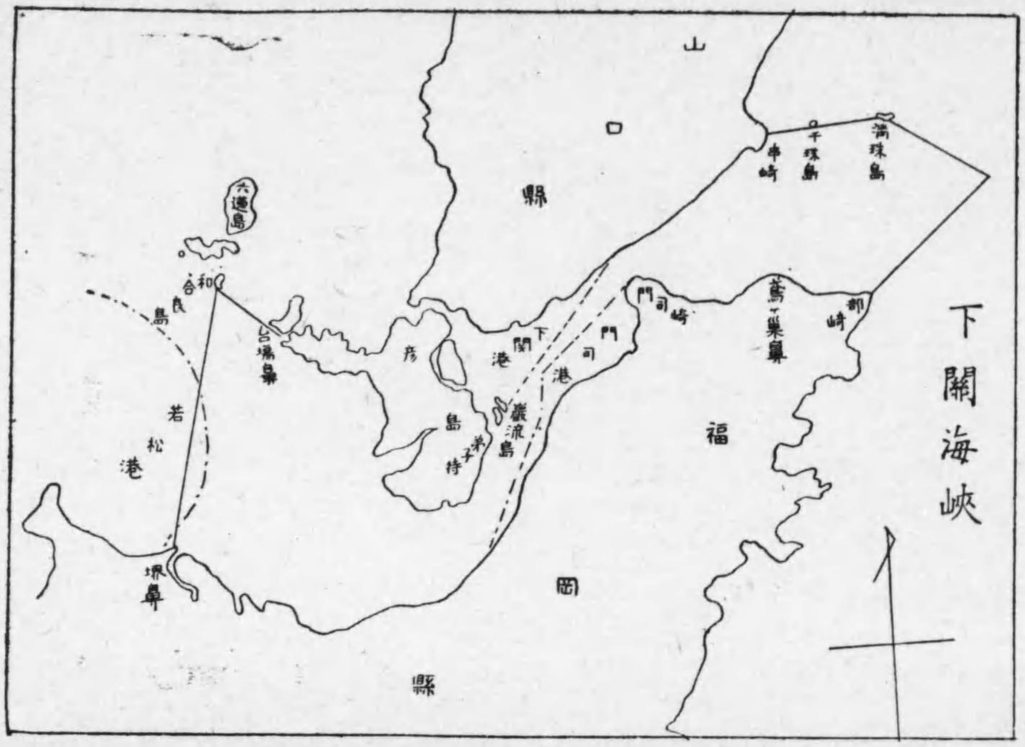
本島海峡

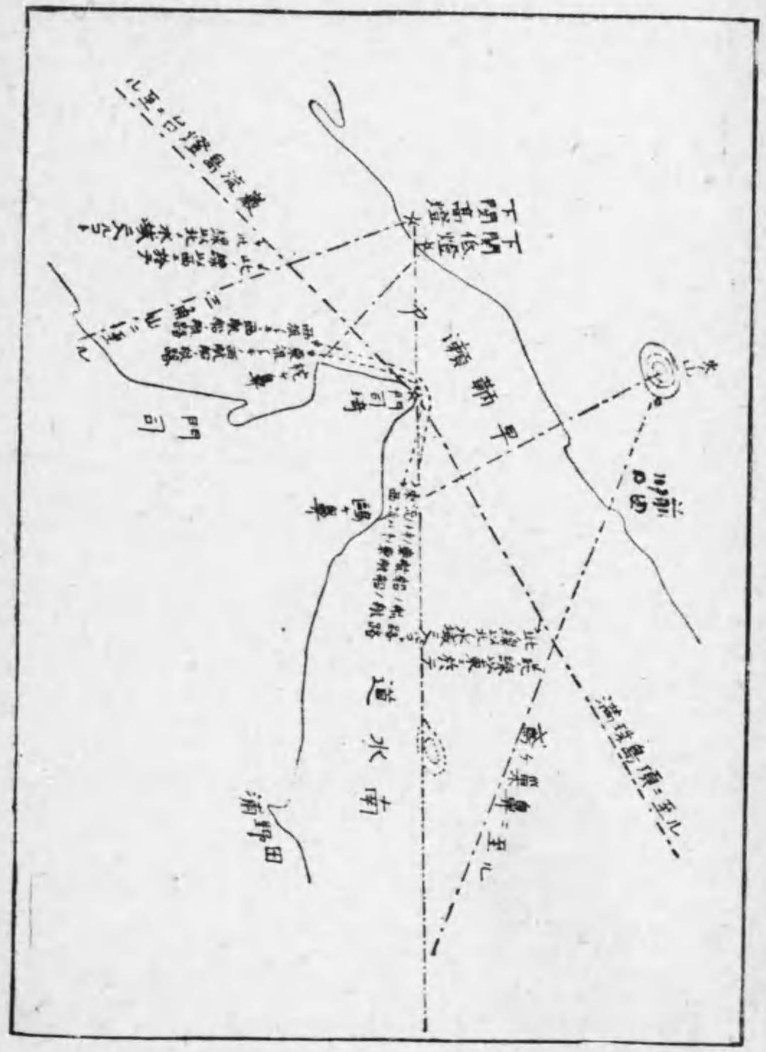


白瀬護衛


中島
眩月島
台場鼻
南埼
琴引鼻
頭埼
興居島
小市島
釣島

釣島水道


山口縣
福岡縣
下關海峽
滿珠島
千珠島
串崎
六連島
和田
長島
若松港
堺鼻
台場鼻
彦島
下關港
門司港
門司崎
藍巣鼻
御崎
壇浦



海上衝突豫防規則

（施行期日ハ勅令ヲ以テ定メラル）

總則

本規則ハ公海面及之ト接續スル一切ノ水面ニシテ航海船ノ航行シ得ベキモノニ於ケル一切ノ船舶ニ依リ遵守セラルベシ

「記規則ニ於テハ帆ヲ用ヒ汽力ヲ用ヒ居ラザル各汽船ハ之ヲ帆船ト看做ジ帆ヲ用フルト否トヲ問ハズ汽力ヲ用ヒ居ル各船舶ハ之ヲ汽船ト看做ス

汽船「ナル語ハ機械ニ依リ推進セラルル一切ノ船舶ヲ包含ス

汽力ヲ用ヒ居ル」ナル語ハ一切ノ機械ヲ用ヒ居ルコトヲ意味ス

船舶ガ碇泊中、陸岸ニ繋留中又ハ乘揚中ニ非ザルトキハ該船舶ハ本規則ノ意義ニ於テハ「航行中」ナリトス

船舶ノ長サハ該船舶ノ登錄證書ニ揭ゲラルル長サナリトス

燈火等ニ關スル規則

本規則ニ於テ「見得ル」ナル語ハ燈火ニ適用セラルルトキハ大氣清澄ナル暗夜ニ於テ見得ルコトヲ意味ス

第一條　燈火ニ關スル規則ハ如何ナル天候ニ於テモ日沒ヨリ日出迄遵守セラルベク右時間中ハ所定ノ燈火ト誤認セラレ又ハ所定ノ燈火ノ見得ルコトヲ妨グベキ他ノ燈火ヲ表示スルコトヲ得ズ

第二條　汽船ハ航行中左ノ燈火ヲ揭グベシ

（イ）前檣若ハ其ノ前方ニ又前檣ナキトキハ船舶ノ前部ニ亮明ノ白燈一個　此ノ燈火ハ羅針儀ノ二十點ノ水平ノ弧ニ亘リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ニシテ其ノ射光ヲ船舶ノ各舷ヘ十點即チ正船首ヨリ各舷ノ正横後二點迄及ボス樣据附ケラレ且少クトモ五海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ

（ロ）（イ）ニ規定セラルル白燈ノ前方又ハ後方ニ之ト同樣ノ構造及性質ノ第二白燈一個　長サ四十五メートル七五未

滿ノ船舶ハ此ノ第二白燈ヲ掲グルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲グルモ妨ナシ

(ハ) 此等二個ノ白燈ハ龍骨線上ニ於テ一ハ他ヨリ少クトモ四メートル五七高ク低キ燈火ハ高キ燈火ノ前方ニ在リ且第二條(ニ)及(ホ)ニ規定セラルル燈火ヨリモ高キ位置ニ掲ゲラルベシ此等二個ノ白燈間ノ垂直距離ハ水平距離ヨリ小ナルベシ此等二個ノ白燈中低キ燈火ハ又單ニ一個ノミ掲ゲラルルトキハ其ノ燈火ハ船體上六メートル一〇ヨリ少カラザル高サニ若シ船幅六メートル一〇ヲ超ユルトキハ船體上其ノ船幅ヨリ少カラザル高サニ掲ゲラルベシ尤モ該燈火ハ船體上十二メートル一九ヲ超ユル高サニ掲ゲラルルコトヲ要セズ

(ニ) 右舷ニ綠燈一個 此ノ燈火ハ羅針儀ノ十點ノ水平ノ弧ニ亘リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ニシテ其ノ射光ヲ正船首ヨリ右舷ノ正横後二點迄及ボス樣据附ケラレ且少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ

(ホ) 左舷ニ紅燈一個 此ノ燈火ハ羅針儀ノ十點ノ水平ノ弧ニ亘リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ニシテ其ノ射光ヲ正船首ヨリ左舷ノ正横後二點迄及ボス樣据附ケラレ且少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ

(ヘ) 前記綠及紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前方ヘ少クトモ零メートル九一突出セル內側隔板ヲ裝置シ以テ紅光ヲ右舷前方ヨリ綠光ヲ左舷前方ヨリ見得ザラシムベシ

燈火ノ位置又ハ之ヲ見得ル距離ニ關シ本條ノ規定ヲ完全ニ遵守スルコト能ハザル特殊構造ノ海軍艦船ニ在リテハ右規定ハ事情ノ許ス限リ正確ニ遵守セラルベシ又海軍艦船ニシテ本條(ロ)ニ規定セラルル第二白燈ヲ掲グルコト實行不可能ナルモノニ在リテハ之ヲ掲グルコトヲ要セズ

第三條 汽船ハ他ノ船舶ヲ曳キテ航行スルトキハ舷燈ノ外亮明ノ白燈二個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ二隻以上ノ船舶ヲ曳キテ航行シ曳船ノ船尾ヨリ最後ノ被曳船ノ船尾ニ至ル距離ガ百八十三メートルヲ超ユルトキハ右燈火ノ上方又ハ下方一メートル八三ノ所ニ亮明ノ白燈一個ヲ更ニ掲グベシ此等ノ燈火ハ何レモ第二條(イ)ノ白燈ト同一ノ構造及性質ノモノタルベク其ノ中一個ハ第二條(イ)ノ白燈ト同一ノ場所ニ掲ゲ最低ノ燈火ハ船體上四メートル五七ヨリ少カラザル高サニ掲ゲラルベシ

航行中ノ曳船及被曳船ハ最後ノ被曳船ヲ除キ第十條ニ規定セラルル燈火ニ代ヘ操舵目標トシテ煙突又ハ後檣ノ後方ニ小形ノ白燈一個ヲ掲グルコトヲ得但シ該燈火ハ本船正横ノ前方ヨリ見得ザラシムベシ

第四條

(イ) 運轉ノ自由ヲ得ザル船舶ハ最見易キ場所ニ、汽船ナルトキハ第二條(イ)及(ロ)ニ規定セラルル燈火ニ代ヘ、紅燈二個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ下方ノ燈火ハ船體上四メートル五七ヨリ低カラザルベク且此等ノ燈火ハ周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ又晝間ニ在リテハ最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ノ黑球又ハ黑色ノ形象二個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ

(ロ) 海底電線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ第二條(イ)及(ロ)ニ規定セラルル燈火ニ代ヘ三個ノ燈火ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ最低ノ燈火ハ船體上少クトモ四メートル五七ヨリ低カラザルベク且此等ノ燈火ノ中最高及最低ノモノハ紅、中央ノモノハ白ニシテ何レモ周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ晝間ニ在リテハ該船舶ハ最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ヨリ少カラザル形象三個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ其ノ中最高及最低ノモノハ球形紅色ニシテ中央ノモノハ菱形白色タルベシ

(ハ) 本條ニ規定セラルル船舶ハ行脚ヲ有セザルトキハ舷燈ヲ掲グルコトヲ得ズ行脚ヲ有スルトキハ之ヲ掲グベシ

(ニ) 本條ニ依リ掲グルコトヲ要スル燈火及形象ハ之ヲ掲グル船舶ガ運轉ノ自由ヲ得ズ從テ他船ヲ避ケ能ハザルノ信號ナリト他船ニ依リ認メラルベキモノトス

前記ノ信號ハ遭難シテ救助ヲ求ムル船舶ノ信號ニ非ズ此等ノ信號ハ第三十一條ニ之ヲ掲グ

第五條 航行中ノ帆船及航行中ノ被曳船ハ航行中ノ汽船ニ付第二條ニ規定セラルルモノト同樣ノ燈火ヲ掲グベシ但シ同條ニ規定セラルル白燈ハ之ヲ掲グルコトヲ得ズ

第六條　荒天ノ際ニ航行中ノ小形船舶ノ場合ニ於ケルガ如ク緣及紅ノ舷燈ヲ据付クルコト能ハザルトキハ此等ノ燈火ハ何時ニテモ使用シ得ル樣點火シテ手近ニ備置キ他ノ船舶ガ近寄リ來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄リ行クトキ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ最見易キ樣之ヲ各舷ニ表示スベシ但シ緣光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ザル樣且實行可能ナルトキハ各舷ノ正横後二點ヨリ後方ニ於テ見得ザル樣爲スベシ

此等ノ携帶用燈火ノ使用ヲ一層正確且容易ナラシムル爲携帶用燈火ヲ容ルル燈籠ハ夫夫其ノ容ルル燈光ノ色ヲ以テ外面ヲ塗リ且適當ナル隔板ヲ備フベシ

第七條　總噸數四十噸未滿ノ汽船、總噸數二十噸未滿ノ櫓櫂又ハ帆ヲ用ヒ居ル船舶及櫓櫂船ハ航行中ハ第二條ニ規定セラルル燈火ヲ掲グルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲ゲザルトキハ必ズ左ノ燈火ヲ備フベシ

一　四十噸未滿ノ汽船ハ左ノ燈火ヲ掲グベシ

(イ)　船舶ノ前部ニシテ煙突又ハ其ノ前方ノ最見易キ場所ニ舷緣上二メートル七五ヨリ少カラザル高サニ於テ第二條(イ)ニ規定セラルル構造及据附ノモノニシテ少クトモ三海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノ亮明ノ白燈一個

(ロ)　第二條(ニ)及(ホ)ニ規定セラルル構造及据附ノモノニシテ少クトモ一海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノ緣及紅ノ舷燈各一個又ハ右舷ハ緣光、左舷ハ紅光ヲ正船首ヨリ各舷ノ正横後二點迄放ツ兩色燈籠一個　右燈籠ハ白燈ノ下方零メートル九一ヨリ少カラザル所ニ掲ゲラルベシ

二　航海船ニ搭載セラルルガ如キ小形汽艇ハ白燈ヲ舷緣上二メートル七四ヨリ少キ高サニ掲グルコトヲ得尤モ該白燈ハ第一號(ロ)ニ規定セラルル舷燈又ハ兩色燈籠ノ上方ニ提ゲラルベシ

三　二十噸未滿ノ櫓櫂又ハ帆ヲ用ヒ居ル船舶ハ舷燈ヲ掲ゲザルトキハ最見易キ場所ニ一面ハ緣光、他面ハ紅光ヲ放チ少クトモ一海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノ燈籠一個ヲ緣光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ザル樣ニ掲グベシ此ノ燈火ハ若シ之ヲ据附クルコト能ハザルトキハ何時ニテモ使用シ得ル樣之ヲ點火シテ備置キ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ之ヲ表示スベシ

四　小形ノ櫓櫂船ハ櫓櫂ヲ用ヒ居ルト帆ヲ用ヒ居ルトヲ問ハズ點火シタル燈籠ニシテ白光ヲ放ツモノヲ何時ニテモ使用シ得ル樣手近ニ備置クヲ要スルヲ以テ足リ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ臨時之ヲ表示スベシ

本條ニ規定セラルル船舶ハ第四條(イ)及第十一條末項ニ規定セラルル燈火ヲ掲グルコトヲ要セズ

第八條　水先帆船ハ其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ碇泊シ居ラザルトキハ他ノ船舶ニ付規定セラルル燈火ヲ表示スルコトヲ得ザルモ周圍少クトモ三海里ノ距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ檣頭ニ掲ゲ且十分時ヲ超エザル短時ノ間隙ヲ以テ一個又ハ數個ノ焔火ヲ表示スベシ

水先帆船ハ他ノ船舶ガ近寄リ來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄リ行クトキハ其舷燈ニ點火シ何時ニテモ使用シ得ル樣用意シ船首ノ方向ヲ示ス爲短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ閃カシ又ハ表示スベシ但シ緣光ハ左舷ヘ紅光ハ右舷ヘ表示セラルルコトヲ得ズ

水先人ヲ他ノ船舶ニ乘船セシムル爲之ニ横附ケスルコトヲ要スルガ如キ種類ノ水先帆船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲グル代リニ之ヲ表示スルコトヲ得又前記舷燈ノ代リニ一面ハ緣、他面ハ紅ノ硝子ノ燈籠一個ヲ何時ニテモ使用シ得ル樣手近ニ備置クコトヲ得該燈籠ハ前記ノ規定ニ依リ使用セラルベキモノトス

水先汽船ハ其停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ碇泊シ居ラザルトキハ水先帆船ニ付規定セラルル燈火及焔火ノ外其ノ檣頭ノ白燈ノ下方二メートル四〇ノ所ニ周圍少クトモ三海里ノ距離ニ於テ見得ル紅燈一個ヲ掲ゲ且航行中ノ船舶ニ依リ掲ゲラルルコトヲ要スル舷燈ヲ掲グベシ

一切ノ水先船其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ碇泊シ居ルトキハ前記ノ規定ニ依リ燈火ヲ掲ゲ且焔火ヲ表示スベシ但シ舷燈ヲ表示スルコトヲ得ズ

水先船ハ其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ居ラザルトキハ其ノ種類及噸數ノ他ノ船舶ト同一ノ燈火ヲ掲グベシ

第九條(註一註二)　漁船ハ航行中ニシテ且本條ニ依リ左ニ規定セラルル燈火ヲ掲ゲ又ハ表示スルコトヲ要求セラレザルトキハ同一噸數ノ航行中ノ船舶ニ付規定セラルル燈火ヲ掲ゲ又ハ表示スベシ

(イ) 無甲板船（全部張詰メタル甲板ニ依リ海水ノ浸入ヲ防グコトナキ船舶ヲ意味ス）ハ該船ヨリ海面ニ向ヒ水平四十五メートル七二ヲ超エザル距離ニ延出シタル漁具ニ依リ夜間漁撈ニ從事スルトキハ周圍ヲ照ス白燈一個ヲ掲グベシ

無甲板船ハ該船ヨリ海面ニ向ヒ水平四十五メートル七二ヲ超ユル距離ニ延出シタル漁具ニ依リ夜間漁撈スルトキハ周圍ヲ照ス白燈一個ヲ掲グベク又他ノ船舶ニ近寄リ行クトキ又ハ他ノ船舶ガ近寄リ來ルトキハ更ニ第一燈火ヨリ少クトモ零メートル九一下方ニ且結附ケラレタル漁具ノ方向ニ於テ該燈火ヨリ少クトモ一メートル五〇ノ水平距離ニ第二白燈一個ヲ表示スベシ

前記燈火ハ少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ

(ロ) (註三)(イ)ニ規定セラルル無甲板船ヲ除キ船舶ハ流網ヲ以テ漁撈スルトキハ網ノ全部又ハ一部ガ水中ニ在ル間最見易キ場所ニ白燈二個ヲ掲グベシ右燈火ハ其ノ垂直距離一メートル八〇ヨリ少カラズ四メートル五〇ヲ超エズ且龍骨線上ニ於テ測リタル其水平距離一メートル五〇ヨリ少カラズ三メートルヲ超エザル樣之ヲ掲グベシ此等二個ノ燈火中低キモノハ網ノ方向ニ掲ゲラルベク且兩燈トモ周圍ヲ照シ三海里ヨリ少カラザル距離ニ於テ見得ルモノタルベシ

地中海內及日本國ノ沿海ニ於テハ竝ニ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ船舶ニ關シテハ總噸數二十噸未滿ノ帆走漁船ハ右兩燈中低キモノヲ掲グルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲ゲザルトキハ他ノ船舶ガ近寄リ來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄リ行クトキ一海里ヨリ少カラザル距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ同一ノ場所（網又ハ漁具ノ方向ニ於テ）ニ表示スベシ

(ハ) (イ)ニ規定セラルル無甲板船ヲ除キ船舶ハ延繩ヲ延ベ之ヲ結附ケテ延繩漁撈スルトキ又ハ延繩ヲ曳入ルルトキニシテ碇泊中又ハ(チ)ノ意義ニ於ケル停止中ニ非ザル場合ニ於テハ流網ヲ以テ漁撈スル船舶ト同一ノ燈火ヲ掲グベシ延繩ヲ延ブルトキ又ハ曳繩ヲ以テ漁撈スルトキハ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ付夫々規定セラルル燈火ヲ掲グベシ

地中海內及日本國ノ沿海ニ於テハ竝ニ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ沿海（「バルテイック」海ヲ除ク）ニ於ケル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ船舶ニ關シテハ總噸數二十噸未滿ノ帆走漁船ハ右兩燈中低キモノヲ掲グルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲ゲザルトキハ他ノ船舶ガ近寄リ來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄リ行クトキ一海里ヨリ少カラザル距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ同一ノ場所（網又ハ漁具ノ方向ニ於テ）ニ表示スベシ

(ニ) 一 汽船ナルトキハ第二條(イ)ニ規定セラルル白燈ト同一ノ場所ニ三色燈籠ニシテ正船首ヨリ各舷二點迄白光ヲ掲ゲ及該三色燈籠ノ下方一メートル八〇ヨリ少カラズ三メートル六〇ヲ超エザル場所ニ周圍ニ明瞭一樣ニシテ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ノ白色燈籠一個ヲ掲グベシ

二 帆船ナルトキハ周圍ニ明瞭一樣ニシテ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ノ白色燈籠一個ヲ掲ゲ且他ノ船舶ガ近寄リ來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ最見易キ場所ニ白焰火又ハ炬火一個ヲ表示スベシ

(ホ) (ニ)ノ一及二ニ掲ゲラルル一切ノ燈火ハ少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ルモノタルベシ

(ヘ) 桁網ヲ以テ漁撈スル牡蠣採取船其ノ他ノ船舶ハ底曳網漁船ト同一ノ燈火ヲ掲ゲ及表示スベシ

(ト) 漁船ハ本條ニ依リ掲ゲ及表示スルコトヲ要求セラルル燈火ノ外何時ニテモ焰火ヲ使用スルコトヲ得ベク且漁業用ノ燈火ヲ用フルコトヲ得

長サ四十五メートル七二未滿ノ一切ノ漁船ハ碇泊中周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ表示スベシ

長サ四十五メートル七二以上ノ一切ノ漁船ハ碇泊中周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ表示スベシ

ク且第十一條ニ依リ同一ノ長サノ船舶ニ付規定セラルルガ如キ第二燈火一個ヲ表示スベシ

長サ四十五メートル七二未滿ナルト以上ナルトヲ問ハズ漁船ガ網其ノ他ノ漁具ヲ結附ケ居ル場合ニ於テ他船ガ近寄リ來ルトキハ碇泊燈ヨリ少クトモ零メートル九一下方ニ且網又ハ漁具ノ方向ニ於テ右燈火ヨリ少クトモ一メートル五〇ノ水平距離ニ白燈一個ヲ更ニ表示スベシ

(チ) 船舶ハ漁撈中其ノ漁具ガ岩礁其ノ他ノ障碍物ニ纏著シタル爲停止スルトキハ晝間ハ(ヌ)ニ規定セラルル晝間信號ヲ引下シ夜間ハ碇泊中ノ船舶ニ付規定セラルル燈火ヲ表示スベシ又霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中ハ碇泊中ノ船舶ニ付規定セラルル信號ヲ爲スベシ(第十五條(ニ)及末項參照)

(リ) 霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中ハ網ヲ結附ケタル流網漁船、底曳網、桁網又ハ各種ノ曳網ヲ以テ漁撈中ノ船舶及延繩ヲ延ベテ漁撈中ノ船舶ハ總噸數二十噸以上ナルトキハ汽船ニ在リテハ汽笛又ハ汽角、帆船ニ在リテハ霧中號角ニ依リ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスベシ總噸數二十噸未滿ノ漁船ハ前記ノ信號ヲ爲スコトヲ要セズ尤モ之ヲ爲サザルトキハ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ他ノ有効ナル音響信號ヲ爲スベシ

(ヌ) 網、繩又ハ底曳網ヲ以テ漁撈スル一切ノ船舶ハ航行中晝間ハ最見易キ場所ニ籃一個ヲ掲ゲ其ノ漁撈中ナルコトヲ示スベシ右船舶ガ碇泊中其ノ漁具ヲ延出シタルトキハ他ノ船舶ガ近寄リ來ルトキ右ト同一ノ信號ヲ他ノ船舶ガ通過シ得ル側ニ表示スベシ

本條ニ依リ前記諸燈火ヲ掲ゲ又ハ表示スルコトヲ要求セラルル船舶ハ第四條(イ)及第十一條末項ニ規定セラルル燈火ヲ掲グルコトヲ要セズ

註一　本條ハ中華民國及暹羅國ノ船舶ニハ之ヲ適用セズ

註二　本條(ロ)及(ハ)中「地中海」ナル語ハ黑海及之ト接續スル他ノ內海ヲ包含ス

註三　和蘭國船舶ハ「コル」漁撈即チ手釣漁撈ニ從事スルトキハ流網ヲ以テ漁撈スル船舶ニ付規定セラルル燈火ヲ掲グ

第十條　船舶ハ航行中船尾ニ白燈一個ヲ掲グベシ此ノ燈火ハ羅針儀ノ十二點即チ正船尾ヨリ各舷六點宛ノ水平ノ弧ニ亘リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造及据附ニシテ隔板ヲ備ヘ且少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ右燈火ハ實行可能ナル限リ舷燈ト同一ノ高サニ之ヲ掲グベシ

小形船ニ於テ荒天又ハ他ノ十分ナル事由ニ因リ右燈火ヲ据附ケ得ザルトキハ一個ノ燈火ヲ何時ニテモ使用シ得ル樣點火シテ手近ニ備置キ追越船ガ近寄リ來ルトキ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ之ヲ表示スベシ

燈火ノ位置又ハ之ヲ見得ル距離ニ關シ本條ノ規定ヲ完全ニ遵守スルコト能ハザル特殊構造ノ海軍艦船ニ在リテハ右規定ハ事情ノ許ス限リ正確ニ遵守セラルベシ

曳船被曳船ニ付テハ第三條末項ヲ參照スベシ

第十一條　長サ四十五メイトル七二未滿ノ船舶ハ碇泊中前方最見易キ場所ニシテ船體上六メートル一〇ヲ超エザル高サニ周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル明瞭一樣ニシテ切斷セラレザル光ヲ放ツ構造ノ白色燈籠一個ヲ掲グベシ

長サ四十五メートル七二以上ノ船舶ハ碇泊中船舶ノ前部ニ於テ船體上六メートル一〇ヨリ少カラザル高サニ前記ノ燈火一個ヲ掲ゲ尙船尾又ハ其ノ附近ニ於テ前方ノ燈火ヨリ少クトモ四メートル五七下方ノ高サニ同種ノ燈火一個ヲ掲グベシ

日出ヨリ日沒迄一切ノ船舶ハ航路筋又ハ其ノ附近ニ碇泊中前方最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ノ黑球一個ヲ掲グベシ

航路筋又ハ其ノ附近ニ於テ乘揚ゲタル船舶ハ夜間ハ前記燈火及第四條(イ)ニ規定セラルル紅燈二個ヲ掲ゲ晝間ハ最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ノ黑球三個ヲ上下ニ垂直線上ニ掲グベシ

第十二條　各船舶ハ本規則ニ依リ掲グルコトヲ要求セラルル燈火ノ外注意ヲ喚起スル爲必要ニ應ジ焰火ヲ表示シ又ハ所定ノ遭難信號若ハ霧中信號ト誤認セラルルコトナキ爆裂信號若ハ他ノ有效ナル音響信號ヲ使用スルコトヲ得

第十三條　本規則ノ規定ハ二隻以上ノ海軍艦船若ハ護送ノ下ニ航行スル船舶ニ掲揚スル位置燈及信號燈ニ關シ各國政府ノ定ムル特別規則ノ施行又ハ船舶所有者ノ採用スル識別信號ニシテ其ノ政府ニ依リ許可セラレ適法ニ登錄及公示セラレタルモノノ表示ヲ妨グルコトナシ

第十四條　帆ヲ用ヒテ航行スル船舶ハ汽力又ハ他ノ機械力ヲ併用スルトキハ晝間前方最見易キ場所ニ底ノ直徑零メートル六一ノ黑色ノ圓錐形象一個ヲ尖端ヲ上方ニ向ケ掲グベシ

霧等ニ對スル音響信號

第十五條　航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定セラルル一切ノ信號ハ左ノモノニ依リ爲サルベシ

一　「汽船」ニ在リテハ汽笛又ハ汽角

二　「帆船及被曳船」ニ在リテハ霧中號角

本條ニ於テ使用セラルル「長聲」ナル語ハ四秒乃至六秒間ノ一吹聲ヲ意味ス

汽船ハ汽力又ハ汽力ニ代用スルモノニ依リ發聲スル有効ナル汽笛又ハ汽角ニシテ其ノ音響ガ障碍物ニ依リ遮斷セラレザル樣裝置セラレタルモノ一個、機械的方法ニ依リ發聲スル有効ナル霧中號角一個及有効ナル號鐘一個(註一)ヲ備附クベシ總噸數二十噸以上ノ帆船ハ右ト同樣ノ霧中號角及號鐘各一個ヲ備附クベシ

霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中ハ晝夜ヲ問ハズ本條ニ掲グラルル信號ハ左ノ如ク使用セラルベシ

(イ)　行脚ヲ有スル汽船ハ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ一長聲ヲ發スベシ

(ロ)　航行中ノ汽船ハ運轉ヲ止メ且行脚ヲ有セザルトキハ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ二長聲ヲ發スベシ二聲ノ間隙ハ約一秒時タルベシ

(ハ)　航行中ノ帆船ハ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ右舷開ナルトキハ一聲ヲ、左舷開ナルトキハ連續二聲ヲ、正横後ニ風ヲ受クルトキハ連續三聲ヲ發スベシ

(ニ)　船舶ハ碇泊中一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ約五秒間號鐘ヲ急速ニ鳴ラスベシ

長サ百六メートル七五ヲ超ユル船舶ニ於テハ右號鐘ハ船舶ノ前部ニテ之ヲ鳴ラシ尙船舶ノ後部ニテ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ號鐘ノ音ト混同セラルルコトナキ音調ノ銅鑼又ハ他ノ器具ニ依リ音響ヲ發スベシ

(ホ)　曳行中ノ船舶、海底電線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶及近寄リ來ル他船ヲ運轉自由ヲ得ザル爲避クルコト能ハザルカ又ハ本規則ニ依リ運轉スルコト能ハザル航行中ノ船舶ハ本條(イ)、(ロ)及(ハ)ニ規定セラルル信號ノ代リニ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ連續三聲即チ一長聲ニ續キ二短聲ヲ發スベシ

被曳船ハ又被曳船二隻以上ナルトキハ最後ノ被曳船ハ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ連續四聲即チ一長聲ニ續キ三短聲ヲ發スベシ但シ被曳船ニ乘組員ヲ乘組マシメ置クコト能ハザルトキハ右信號ハ要求セラルルコトナシ

實行可能ナルトキハ被曳船ハ曳船ニ依リ爲サルル信號ノ直後右信號ヲ爲スベシ

(ヘ)　航路筋又ハ其ノ附近ニ於テ乘揚ゲタル船舶ハ本條(ニ)ニ規定セラルル信號ヲ爲スベク尙右各信號ノ直前及直後ニ於テ號鐘ヲ區切リ明確ニ三回鳴ラスベシ

總噸數二十噸未滿ノ帆船及櫓櫂船ハ前記信號ヲ爲スコトヲ要セズ尤モ之ヲ爲サザルトキハ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ他ノ有効ナル音響信號ヲ爲スベシ(註二)

註一　本規則ニ於テ號鐘ヲ使用スルコトヲ要求スル一切ノ場合ニ「トルコ」國船舶ニ於テハ太鼓ヲ以テ又小形航海船舶ニテ銅鑼又ハ銅鑼ノ如キ器具ヲ使用スルトキハ之ヲ以テ號鐘ニ代フルコトヲ得

註二　白耳義國及和蘭國水先汽船ハ霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事スルトキハ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ汽角ニ依リ一長聲ヲ、引續キ一秒時ノ後汽笛ニ依リ一長聲ヲ、更ニ一秒時ノ後汽角ニ依ル一長聲ヲ發スルコトヲ要ス其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事セザルトキハ他ノ汽船ト同一ノ信號ヲ爲スモノトス

船舶ノ速力ハ霧中等ニ於テ適度タルベキコトスベシ

第十六條　霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中一切ノ船舶ハ其ノ時ノ事情及條件ニ愼重ナル注意ヲ爲シ適度ノ速力ヲ以テ進行

汽船ハ其ノ正横ヨリ前方ナリト推測セラルル方向ニ當リ船舶ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ確メ得ザルトキハ其ノ場合ニ於ケル事情ノ許ス限リ機關ノ運轉ヲ止メ衝突ノ危險ナキニ至ル迄注意シテ航行スベシ

操舵及航行規則

總則　衝突ノ虞

衝突ノ虞ハ事情ノ許ス場合ニ於テハ近寄ル船舶ノ羅針方位ヲ愼重ニ看守スルコトニ依リ之ヲ確ムルコトヲ得方位ガ識別シ得ル程度ニ變更セザルトキハ衝突ノ虞アリト看做サルベシ

第十七條　二隻ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ左ノ如ク其ノ一船ハ他船ヲ避クベシ

(イ) 一杯ニ開カザル船舶ハ一杯ニ開キタル船舶ヲ避クベシ

(ロ) 左舷ニ一杯ニ開キタル船舶ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船舶ヲ避クベシ

(ハ) 一杯ニ開カザル二隻ノ船舶ガ風ヲ受クル舷同ジカラザルトキハ左舷ニ風ヲ受クル船舶ハ他船ヲ避クベシ

(ニ) 一杯ニ開カザル二隻ノ船舶ガ風ヲ受クル舷同ジキトキハ風上ノ船舶ハ風下ノ船舶ヲ避クベシ

(ホ) 船尾ヨリ風ヲ受クル船舶ハ他船ヲ避クベシ

第十八條　二隻ノ汽船眞向又ハ殆ド眞向ニ行逢ヒ衝突ノ虞アルトキハ各船互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ通過シ得ル樣針路ヲ右舷ニ轉ズベシ

本條ハ船舶ガ眞向又ハ殆ド眞向ニ行逢ヒ衝突ノ虞アル場合ニノミ之ヲ適用シ各自其ノ針路ヲ保ツトキハ確實ニ替リ行クベキ二船ニハ之ヲ適用セズ

本條ヲ適用スル場合ハ二船舶ノ各ガ他方ニ眞向又ハ殆ド眞向ニ行逢ヒタルトキ換言スレバ晝間ニ在リテハ各船ガ其ノ檣ト他方ノ檣トヲ直線又ハ殆ド一直線ニ見ル場合又夜間ニ在リテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルガ如キ位置ニ在ル場合ニ限ル

本條ハ晝間ニ在リテハ船舶ガ其ノ針路ヲ横切ル他船ヲ船首ニ見ル場合及夜間ニ在リテハ一船ノ紅燈ガ他船ノ紅燈ニ對スル場合、一船ノ緑燈ガ他船ノ緑燈ニ對スル場合、船首ニ緑燈ヲ見ズシテ紅燈ヲ見若ハ紅燈ヲ見ズシテ緑燈ヲ見ル場合又ハ緑及紅ノ二燈ヲ船首以外ノ位置ニ見ル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十九條　二隻ノ汽船互ニ針路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ右舷ニ他船ヲ見ル汽船ハ他船ヲ避クベシ

第二十條　汽船ト帆船トガ衝突ノ虞アル方向ニ進行スルトキハ汽船ハ帆船ヲ避クベシ

第二十一條　本規則ノ規定ニ依リ二船ノ内一方ガ他方ヲ避クベキ場合ニ於テハ他方ハ其ノ針路及速力ヲ保ツベシ

備考　濃密ナル天氣又ハ他ノ事由ニ因リ針路及速力ヲ保ツベキ船舶ガ避讓船ノミノ措置ニ依リテハ衝突ヲ避クルコト能ハザル程度ニ接近シ居ルトキハ針路及速力ヲ保ツベキ船舶モ亦衝突ヲ避クル爲最善ノ措置ヲ執ルベシ（第二十七條及第二十九條參照）

第二十二條　本規則ニヨリ他船ヲ避クルコトヲ要スル一切ノ船舶ハ事情ノ許ス場合ニ於テハ他船ノ船首ヲ横切ルコトヲ避クベシ

第二十三條　本規則ニ依リ他船ヲ避クルコトヲ要スル一切ノ汽船ハ他船ニ近寄ルトキ必要ニ應ジ其ノ速力ヲ緩メ、運轉ヲ止メ又ハ後退スベシ

第二十四條　本規則ニ包含セラルル規定ノ如何ニ拘ラズ他ノ船舶ヲ追越ス一切ノ船舶ハ被追越船ヲ避クベシ

他ノ船舶ノ正横後二點ヲ超ユル方向即チ追越サルル船舶トノ關係ニ於テ夜間其ノ舷燈ノ何レヲモ見ルコト能ハザル位置ヨリ之ニ接近スル一切ノ船舶ハ追越船ト看做サルベシ、兩船間ニ於ケル方位ノ爾後ノ變更ハ何等追越船ヲシテ本規則ノ意義ニ於ケル横切船タラシムルコトナク又該追越船ガ確實ニ追越シ終ル迄ハ之ニ對シ被追越船ヲ避クルノ義務ヲ免除スルコトナシ

晝間ニ在リテハ追越船ハ他船ヨリノ前記方向ノ前方又ハ後方ノ何レニ在ルカヲ常ニ確知シ能ハザルモノナルヲ以テ該追越船ハ疑アルトキハ自已ヲ追越船ト看做シテ他船ヲ避クベシ

第二十五條　狹隘ノ水道ニ於テハ一切ノ汽船ハ安全ニシテ且實行可能ナルトキハ航路筋又ハ中流ノ該船ノ右舷ニ當ル

側ヲ通航スベシ

第二十六條　航行中ノ帆船ハ網、繩又ハ底曳網ヲ以テ漁撈中ノ帆船及櫓櫂船ヲ避クベシ本規定ハ漁撈ニ從事スル船舶ニ對シ漁船以外ノ船舶ニ依リ使用セラルル航路筋ヲ妨害スルノ權利ヲ與フルモノニ非ズ

第二十七條　本規則ヲ遵守シ且解釋スルニ當リテハ航行及衝突ノ一切ノ危險ニ付及切迫シタル危險ヲ避クル爲右規則ノ違反ヲ必要ナラシムベキ一切ノ特殊事情ニ付十分ノ注意ヲ爲スベシ

互ニ相見ル船舶ニ對スル音響信號

第二十八條　本條ニ使用セラルル「短聲」ナル語ハ約一秒間ノ一吹聲ヲ意味ス

船舶ガ互ニ相見ルトキハ航行中ノ汽船ハ本規則ニ依リ容認セラレ又ハ要求セラルル針路ヲ取ルニ際シ汽笛又ハ汽角ヲ以テスル左ノ信號ニ依リ該針路ヲ示スベシ即チ

一短聲ハ「我ハ針路ヲ右舷ニ向ケツツアリ」ヲ意味ス

二短聲ハ「我ハ針路ヲ左舷ニ向ケツツアリ」ヲ意味ス

三短聲ハ「我ガ機關ハ全速力ヲ以テ後退シツツアリ」ヲ意味ス

船舶ハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ適當ノ警戒ヲ怠ルベカラザルコト

第二十九條　本規則ノ規定ハ燈火若ハ信號ヲ掲グルコトノ懈怠、適當ナル見張ヲ爲スコトノ懈怠又ハ海員ノ通常ノ經驗若ハ特殊ノ事情ニ依リ要求セラルル警戒ノ懈怠ノ結果ニ付船舶又ハ其ノ所有者、船長若ハ海員ヲシテ何等其ノ責ヲ免レシメザルモノトス

港灣及內水ノ航行ニ關スル規則ノ留保

第三十條　本規則ノ規定ハ港灣、河川又ハ內水ノ航行ニ關シ地方官憲ニ依リ正當ニ規定セラルル特別規則ノ施行ヲ何等妨グルコトナシ

遭難信號

第三十一條　船舶ガ遭難シ他ノ船舶又ハ陸岸ヨリノ救助ヲ要求スルトキハ左ノ信號ヲ全部又ハ個個ニ使用又ハ表示スベシ

晝間ハ

一　約一分時ノ間隙ヲ以テスル一發ノ砲又ハ他ノ爆發信號

二　國際遭難信號

三　上又ハ下ニ球又ハ球ニ類似ノモノ一個ヲ附シタル方形旗ヨリ成ル遠隔信號

四　霧中信號器ヲ以テスル連續音響

五　無線電信若ハ無線電話又ハ他ノ遠隔信號方法ニ依リ爲サルル國際遭難信號

夜間ハ

一　約一分時ノ間隙ヲ以テスル一發ノ砲又ハ他ノ爆發信號

二　船上ノ發焰（タール樽、油樽等ノ燃燒ニ依リ生ズルガ如キモノ）

三　短時ノ間隙ヲ以テスル一時ニ一發ノ榴彈又ハ火箭ニシテ色又ハ性質ノ如何ヲ問ハズ星火ヲ發スルモノ

四　霧中信號器ヲ以テスル連續音響

五　無線電信若ハ無線電話又ハ他ノ遠隔信號方法ニ依リ爲サルル國際遭難信號

船舶ガ遭難中ナルコトヲ表示スル目的以外ニ前記信號ヲ使用スルコト及前記信號ト混同セラルルコトアルベキ信號ヲ使用スルコトハ之ヲ禁止ス

389
38

明治三十九年七月五日發行
昭和十四年四月十日四四版

定價金六拾錢

發行兼著者　大阪市港區(市岡)市場通一丁目一番地　海士學館
印刷者　大阪市西區京町堀通一丁目十六　合資會社日本社印刷所　十河清
發行所　大阪市港區市岡市電元町四丁目停留場半丁西　中山海士學館
振替貯金大阪六八二九三番
電話西二〇九番

發行者ノ許諾ナクシテ本書ノ復製ヲ許サズ

發賣元
大阪市東區南本町四丁目　三宅莊藏
大阪市港區境川交叉點　境川文庫

終